

## フランス国立図書館所蔵の宣教師による 西書漢訳著書について

伊藤 信博

### 1. はじめに

本稿は、所属研究科「教育研究プロジェクト」(2009、2010 年度)の助成を受け調査した、フランス国立図書館写本室蔵書の調査報告書である。また、この報告書は2009年に勉誠出版「アジア遊学」127、『キリシタン文化と日欧交流』所収の拙論「フランス国立図書館所蔵の宣教師による漢訳著書目録について」の目録・解説部分を大幅に修正し、写本室蔵西書漢訳書、特に『天主降生出像経解』への分析から、西欧文化の中国受容に関する考察を加筆したものである。

フランス国立図書館旧東洋写本室(2010年9月に西欧・東洋写本室が統合され、現在は写本室が正式名称)は、アフリカ、オセアニアを含むアジア諸国の写本・版本を所蔵し、中でも最大のコレクションは中国、日本、韓国の写本・版本である。しかし、その蔵書を日本から調べようとするとかなり困難が伴う。漢籍写本・版本は十五万冊以上あるとされるが、ネット上に公開されているのは、その一部に過ぎない。残りは、現地で分類カードにより調べるしか方法がないのである。また、公開されている目録(九千八百点)中に西書漢訳書が含まれるが、この目録はモーリス・クーラン(Maurice Courant)がErnest Leroux社から出版した目録の写しで、手書きの註もあり、読みづらい。<sup>2</sup>

このモーリス・クーラン編『パリ国立図書館所蔵漢籍解題目録』(以降、解題目録と略す)はchinois 1~4423(1902年)、chinois 4414~6689(1910年)、chinois 6690~7491(1912年)と三度に分けて出版され(以降、目録番号のchinoisを省き、番号のみを記す)、歴史、地理、政治、哲学、文学、医学、美術、道教、儒教、天主教、仏教(経典の他、中国撰述や僧伝)、プロテスタント、イスラム教、百科全書など様々な分野でフランスが収集した漢籍が記されている。また、アンリ・コルディエ(Henri Cordier)編『17~18世紀に中国において西洋人によって出版された西書漢訳解題目録』が紹介する書物もこ

の解題目録には数多く含まれている。<sup>3</sup>

ところで、解題目録の 6690～7491 には、「天主教」と題される天主教漢訳書目録があり、重複する題目も含め、八百一点に上る。解題目録全体から抽出した宣教師の著作を含めると、宣教師の手による千百点近い漢書および西書漢訳書がこの図書館に所蔵されていることになる。差し引きした三百点は、後述する西欧科学紹介書である。

しかし、解題目録に記載がない植物や建築物、風俗などに関する宣教師が記した未調査の書画物が現段階で二百九十四点ある。1740 年代の著作もあり、合計は千四百点を大きく超えるであろう。

## 2. 宣教師が著わした漢書および西書漢訳書

解題目録 1～4423、4414～6689 から宣教師による著作を抽出すると、先ず目に付くのは、1601 年初版『天主実義』(6820) を著わしたマテオ・リッチ (利瑪竇) である。<sup>4</sup>同書は彼の主著で、中国人と宣教師との教理を巡る問答書であり、儒教的表現を使い、キリストの教えを簡略説明した漢書である。この書物は満語や朝鮮語、日本語、仏語にも翻訳されている。<sup>5</sup>

写本室所蔵のマテオ・リッチの著作は『天主実義』の他に、『重刻畸人十篇』(6830)、『辯學遺牘』(7084)、『交友論』(3371)、『二十五言』(3376)、『幾何原本』(4855～4856)、『同文算指』(4861～4863)、『測量法義』(4864)、『句股義』(4866)、『渾蓋通憲図説』(4899)、『乾坤体義』(4897) などがある。

天主教に関わる著作は『天主実義』、『重刻畸人十篇』、『辯學遺牘』で、『交友論』は友情を論じ、『二十五言』は道徳に関する書物で、その他哲学的な著作もある。また『幾何原本』はユークリッド幾何学の漢訳本<sup>6</sup>であり、「三角錘や円錐などの体積」、「正多面体論」について論じる理論書である。同様の西洋数学書には、李之藻とともに訳した『同文算指』がある。同書は 1583 年にローマで、1584 年にはケルンで出版されたマテオ・リッチの師、クリストファー・クラヴィウス著 “*Epitome Arithmeticae Practicae*” の漢訳書である。<sup>7</sup>

また『測量法義』、『測量異同』、『句股義』は応用数学の範疇に属する著作である。『測量法義』は測量用の観測機器である象限義による測高・測深・測遠方法を中心に、西洋測量術を紹介する。『測量異同』は西欧と中国の測定の相違を論じ、『句股義』は三角法に関する著作で、『渾蓋通憲図説』は西欧天文暦学の説明書である。さらに、写本室に所蔵はないが、中国語で地名を記した絹地印

刷の世界図『坤輿萬國全圖』も彼は記している。<sup>8</sup>

数学の知識や世界地図、地球儀、天体観測機などの西欧文化を紹介し、東洋文化に多くの変化をもたらしたマテオ・リッチは、中国語を話し、また読み書きにも堪能で、「四書」のラテン語訳もおこなっている。そこで彼は、ゼウスを天主と漢訳し、天主は儒教における上帝に等しいとしたのである。

このような西欧科学技術の中国への導入に、ヨハン・アダム・シャル・フォン・ベル（湯若望）やフェルディナント・フェルビースト（南懷仁）も関与している。アダム・シャルは1591年にケルンに生まれ、イエズス会宣教師として、1622年に中国に渡った人物である。『赤道南北両総星全図』（4912）、『赤道南北両総星図説』（4913）、『測食畧』（4921）、『渾天儀説』（1324）、『月離表』（4962）、『交食表』（4964～4965）など西欧天文学や天球儀製作、その使用法を論じる著作があり、太陽や月の運動理論、日月食、恒星、惑星運動論、各種図表などを紹介し、中国への導入に努めている。

また、暦法に関する『新法曆引』（4953）、『暦法西傳』（4954）、『明曆鋪註解惑』（4982）なども記し、清代における新曆編纂の手本となった『崇禎曆書』（百三十五卷）を完成させる徐光啓や李之藻らに協力したのである。<sup>9</sup>この努力から、順治三年（1646）には順治帝によって、天文台長官である欽天監監正にも任じられている。フェルディナント・フェルビーストは、1623年にコルトレイクに近いピテムに生まれ、1659年に中国に渡ったイエズス会宣教師である。『安先生行述』（1024）、『御覽西方要紀』（1882）、『新製儀象図』（4917-IIおよび4918）、『坤輿格致略説』（4922）、『新製靈臺儀象志』（4923-4925）、『不得已辨』（4989）、『欽定新曆測驗紀略』（4992）、『告解原義』（7272）などの著書を写本室は所蔵する。天文の吉凶推算利用を批判した写本室蔵『妄擇辨』（4993）、『妄推吉凶辨』（4995）、『妄占辨』（4998）なども記した彼は、やがてアダム・シャルを補佐し、暦法の改訂に協力したのである。

西欧最新科学技術の知識を宣教師が中国に持ち込んだことから、東西文化交流が盛んになったことはよく知られているが、この写本室蔵書によりその事実がよく分かる。また、彼らが漢語で著書を記したことや『天主実義』にある儒教的表現、その文言などから、宣教師達が中国文化を深く理解しようと努めていたことも明らかである。

中国文化やその社会に関する知識を蓄積した宣教師達は、本国の修道会へ中国事情の報告をおこない、その蓄積された知識から中国学の発展をやがて西欧

で引き起こす。そして、この写本室はその重要な研究拠点となっていたのである。また、上述してきた西欧科学紹介書の多くが江戸時代に日本にも輸入されている事実も注目して然るべきであろう。

### 3. 『天主降生出像経解』について

解題目録の6690～7491には、「天主教」と表題が付いている。しかし、『江蘇省』(6814-VIII)などの地理書、キリスト教と仏教を比較した楊廷筠『鴉鸞説』・『鴉鸞不並鳴説』(6691-II)、仏教、儒教とキリスト教の相違点または共通点を考察する徐光啓『荅郷人書』(6875-II)、ジウリオ・アレーニ(艾儒略)『三山論学紀』(7120)、張星曜『天儒同異考』および『天教合儒』、『天教補儒』<sup>10</sup>(いずれも7171)も含まれている。

なお、ジウリオ・アレーニは、1582年にイタリアのブレシアで生まれ、1613年に中国に入ったイエズス会宣教師である。『大西西泰利先生行蹟』(1014)、『西学凡』(3379)、『五十言余』(3406)、『性学初述』(3409)、『幾何要法』(4869)、『天主降生言行紀略』(6709)、『萬日略経説』(6709-I)、『聖夢歌』(6884)、『天主聖教四字経文』(6887)、『口鐸日抄』(7114)、『滌罪正規』(7259)、『滌罪正規略』(7267)などの著書を写本室は所蔵している。

科学や数学書の他は殆どがキリスト教関連著書であるが、『口鐸日抄』は解題目録が「文人に対する問答集」と注記するように、九十名余の中国人文人と著者が互いに興味のあることを話しあった内容が記されている。ローマと福建の時差、自然現象、人間性、風水思想、一夫多妻制、死後の世界、西欧の四元素と中国の五行などである。マテオ・リッチのみならず、ジウリオ・アレーニの著書を通して、西欧における中国文化や思想の受容の始まりが示されていると言えよう。

ところで、ジウリオ・アレーニが序文(1637年)を記す『天主降生出像経解』(6750)はキリストの生涯を画と詞書で紹介する作品で、エルサレムの地図、本文二十八葉と五十七画からなっている(重複画も含めると五十八画)。本の題は『天主降生言行紀像』、序は『天主降生出像経解』となっている。序文の最後にはイエズス会の印であるIHS(Iesus Hominum Salvator)があり、「天主降生後一千六百三十七年、大明崇禎丁丑歳二月既望」と刊行年が、そして「晉江景教堂繡梓」と刊行場所が示されている。福建・清景教会で制作され、アーセナル図書館が所蔵していた書物と解題目録は記す。

『天主降生出像経解』はその他に 6751～6756 まで、六種類の類似本がある。6751、紙質が悪く、序文を欠き、福建・清景教会で制作、イエズス会所蔵。6752 は 6750 に比べて印刷の質が悪く、序文とエルサレムの地図を欠き、パリ外国宣教会が所蔵。6753 は 6752 と同作品、6754 は 6750 の縮小版で、序文とエルサレムの地図を欠き、粗雑な制作と解題目録は記し、6755 についても 6754 と同作品で、紙質も同様とする。

ところで、下記の比較表（一）で見る限り、6753 は 6752 と画順も同じであることから、同作品であろう。しかし、紙質の違い、印刷の濃淡、板行を続けた際の版木に生じた傷が画に認められるなど、比較すると、6753 の画の傷がより広がっていることや新しい傷が増えていることから、6753 は 6752 より後の出版であろう。また、6754 と 6755 は保存状態が悪く、マイクロフィルムでの閲覧により、紙質調査ができなかったが、どちらも 6750 とは画順が多少相違し、同作品とは言い難く、画数も少ない。

表（一）で全作品を対照すると、6750 の画の傷は他作品の画にも必ずあり、より増えたり、大きくなったりしている。したがって、6750 以下全ての作品が同じ版木での出版である事実が分かる。なお、6751 に関しては、紙質は悪いが、6750 に一番近い作品である。しかし、題は『天主降生聖像』と記されている。

6756 は艾儒略の序が三葉、本文二十六葉で、全二十九葉、五十一画の作品であり、写本室版画部門（0e166）所蔵で、刊行年の記載がない。<sup>11</sup>そして、解題目録は 6754 と同作品とするが、表（一）での対照で明らかのように、6754 とは画の配置が相違し、同作品ではない。

上述したアンリ・コルディエ編「西書漢訳解題目録」は、『天主降生出像経解』（6750）について、「(前略) Les planches, gravées en Chine, de ce livre sont tirées de l'ouvrage sur les Évangiles du P. Jérôme Nadal, S.J. (né à Majourque en 1507; † à Rome le 3 avril 1580); elles sont gravées en Chine d'après les planches de Wierx (Jean, Antoine et Jérôme).」<sup>12</sup>と記し、ジェローム・ナダルが描いた「絵入り福音書」を元に中国で彫られたと説明する。

また、『天主降生出像経解』序文は「(前略) 吾西土有 天主降生巔末四部 當代四聖所記録者復有銅板細鏤吾 主降生聖蹟之圖數百余幅 余不敏嘗敬譯降生事理於言行紀中 茲復倣西刻經像圖繪其要端 欲人覽之如親炙吾主見其所言所行之無二也 中有繪出於言行紀所未載者 蓋更詳聖傳中別記悉繪之以見其全也 至於形容無形之物俾如目覩 則繪法所窮 是以或擬其德而摹之 或取其曩所顯

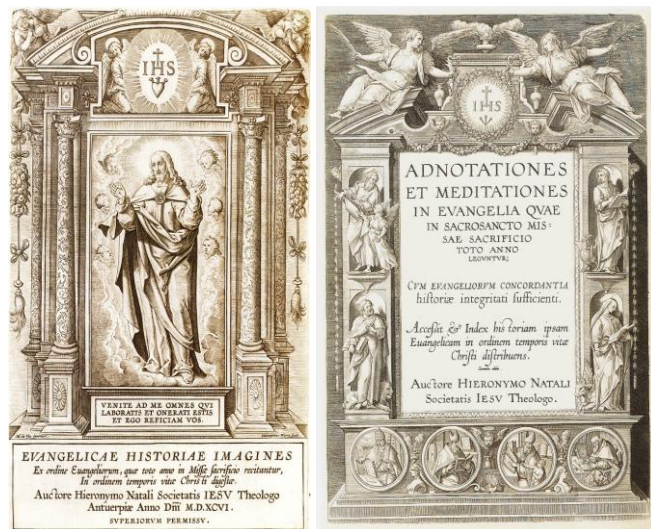
示者而像之如天主罷德肋與斯彼利多三多本 為純神超出萬相 然繪罷德肋借高年尊長之形者摹其無始無終至尊無對之德也 繪斯彼利多三多聃鴿形者蓋吾主耶穌受洗於若翰時 天主聖神嘗借鴿形（鴿為百最善又最相和愛故籍此以指聖神至善而至愛人之意）顯示其頂故也 若天神亦為無形之靈 第其德不衰不老 則以少年容貌擬之 神速如飛 則以肩生兩翅擬之 清潔無染 則以手持花枝擬之 凡如此類義各有歸總 非虛加粉飾以為觀美而已顧 天主無窮聖蹟 豈筆墨所能繪其萬一 而茲數端又不過依中匠刻法所及翻刻西經中十分之一也（後略）」と記し、キリストの生涯を記した書物が西欧には多く、降臨の銅版画が数百枚あることやキリストの生涯を『天主降生言行紀略』（6709）として、艾儒略が訳したこと、西欧で制作された「絵入り福音書」に倣って中国人が翻刻したことなどを記している。<sup>13</sup>

#### 4. ジェローム・ナダル作「絵入り福音書」と『天主降生出像経解』

ジェローム・ナダル（1507～1580年）は、イエズス会の宣教師である。福音者を描き、靈性修業（靈操）用に制作した「絵入りの福音書」は彼の死後、1593年に“*Evangelicae Historiae Imagines*”が、1595年にその拡大版“*Adnotationes et Meditationes in Evangelia*”がアントワープでそれぞれ出版されている。

ところで、1593年版と1595年版を比べると、表紙が相違する。図（一）が1593年版でイエズス会の印と中央にイエス・キリスト、図（二）が1595年版で、イエズス会の印と四人の福音史家、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネが描かれている。

また、本文では百五十三枚の同じ画が使用されているが、同じ画であっても、画の配置が相違する構成である。1593年版はキリストの事跡をほぼ時系列に沿って解説するように順に画が配置されているが、1595年版はランダムな構成で、事跡の起こった時点ではなく、起こった事



図（一）

図（二）

跡・地点がより重要視されていて、時系列は無視されている。<sup>14</sup>

例えば、1593年版は「受胎告知」が第一頁だが、1595年版は「最後の審判」が巻頭に配置される。起こった事跡・地点を重視し、詞書から「霊操」における内容をより喚起させるように仕向けられているのである。また、1595年版はローマ教会暦の順序に従っており、待降節、降誕祭、公現祭と続き、聖体祭で終了する典礼サイクルが基準となっている。

なお、1593年版の画順は下記図（三）、右上にあるように、アラビア数字で記され、真下に置かれるローマ数字が1595年版の画順である。この数字は初版からあり、時系列に沿った書物と起こった事跡・地点を重視する典礼サイクルに沿った書物との二種類の出版計画が当初からあったことが分かる。

この「絵入りの福音書」のもう一つの特徴は、図（三）下段に示されるような画を解説する詞書がラテン語で綴られ、対象画および詞書文頭にアルファベットで番号が振ってあることである。中国語版は詞書が中国語、番号が甲、乙、丙である。「受胎告知」は『天主降生出像経解』では「聖母領上主降孕之報」と訳され、画（三）A～Eまでをラテン語、中国語と並べ対照すると、以下のようになる。



図（三）

A. Conuentus Angelorum, vbi declarat Deus Incarnationem Christi, & designatur Gabriel legatus.

甲 天神聚會 主前恭聞降生之旨嘉俾厄爾尊神受命下界報知 聖母

B. Veniens Nazareth Gabriel, sibi ex aëre corpus accommodat.

乙 嘉俾厄爾降世籍氣頭像

C. Nubes è cœlo, vnde radij ad Mariam Virginem pertinent.

丙 從天雲光照聖母

表(一)

天主降生出像経解 タイトル	6750		6751		6752		6753		6754		6755		6756		ジエローム・ナダル (1593年版)	ジエローム・ナダル (1595年版)
	絵 順	キ ズ	絵 順	キ ズ	絵 順	キ ズ	絵 順	キ ズ	絵 順	キ ズ	絵 順	キ ズ	絵 順	キ ズ	絵 順	絵 順
天主降生聖像	1	○	2	○	1	○	1	○	1	○	2	○	1	○		
天主降生時凶	2		1													
聖若翰先天主而孕	3		3		2		2		2		1		2		90	135
聖若翰先天主而孕	4															
聖母領上主降孕之報	5		4		3		3		3		3		3		1	107
聖母往顧依撒伯爾	6		5		4		4		4		4		4		2	149
天主耶穌降誕	7		6		5		5		5		5		5		3	5
遵古禮命名	8		7		6		6		6		6		6		5	7
三王來朝耶穌	9		8		7		7		7		7		7		7	9
聖母獻耶穌于聖殿	10	○	9	○	8	○	8	○	8	○	8	○	8	○	8	20
耶穌十二齡講道	11		10	○	9	○ 大	9	○ 大	9	○ 大	9	○ 大	9	○	9	10
耶穌四旬巖齊退魔誘	12		11		11		11		11		10		11		12 ※2	25
大聖若翰屢證耶穌爲 天主	13		12	○	10	○	10	○	10	○	11	○	10	○	10	4
婚筵示異	14		13		12		12		12		12		12		15	11
淨都城聖殿	15		14		13		13		13		13		13		16	57
西加汲水化衆	16		15		14		14		14		14		14		35, 36 ※4	51, 52
救伯鐸羅妻母病瘡	17		16		15	○	15	○	15	○	15	○	16	○ ※1	18	50
渡海止風	18		20		18		18		18		18		18		29	14
起癱証赦	19		21												30	142



起三十八年之癰	20		27		22		22		22		24		22		47	32
山中聖訓	21		17		16		16		16		16		15	○ ※1	19	132
救武官之病僕	22		18												27	13
納嬰起寡嫠之殤子	23		19		17		17		17		17		17	※1	28	60
若翰遣徒詢主	24	○	22	○	37	○	37	○	37	○	19	○	37	○	32	2
赦悔罪婦	25		23		36		36		36		20		36	○	34 ※3	69
播種喻	26		24		19		19		19		21		19		38	17
五餅二魚餉五千人	27		25	○	20	○	20	○	20	○	22	○	20	○	43	56
耶蘇步海	28		26		21		21		21		23		21		44	24
底落聖蹟	29		29		24		24		24		26		24		61	31
預告宗徒受難諸端	30	○	36	○	31	○	31	○	31	○	33	○	31	○	80	18
大博山中顯聖容	31		30		25		25		25		27		25		63	33
胎瞽得明證主	32		28		23		23		23		25		23		57	59
貧富生時異景	33		32		27		27		27		29		27		73	37
貧善富惡死後殊報	34		33		28		28		28		30		28	○	74	38
天賞喻	35	○	31	○	26	○	26	○	26	○	28	○	26	○	72	16
伯大尼亞邑起苑者於墓	36		34		29		29		29		31		29	○	78 ※5	63
異學妬謀耶蘇	37		35		30	○	30	○	30	○	32	○	30	○	79	70
葉禮閣開三矇	38		37		32		32		32		34		32		83	19
入都城發嘆	39		38		33		33		33		35		33		87	74
以宴論天國論異端昧主	40	○	39	○	34	○	34	○	34	○	36	○	34	○	93	143
世界終盡降臨審判生死	41		41		35		35		35		38		35	○	99	28
濯足垂訓	42		40		38		38		38		37		38		101	77

立聖體大禮	43		42		39		39		39		39		39		102	78
囿中祈禱汗血	44		43		40		40		40		40		40		107	80
耶蘇一言仆衆	45		44		41	○	41	○	41	○	41	○	41	○	108	81
被加荊冠苦辱	46		46		43		43		43		44		43		122	95
繫鞭苦辱	47		45		42		42		42		42		42		121	94
負十字架登山	48		47		45		45		44		43		44		126	99
耶蘇被釘靈蹟疊現	49		48		44		44		45		45		45		130	103
耶蘇聖魂降臨地獄	50		49												131	104
文武二仕殮葬耶蘇	51		50												132, 133 ※6	105, 106
耶穌復活	52		51		46		46		46		46		46		134	108
耶穌復活現慰聖母	53		52												135	109
耶穌將昇天施命	54		53		47	○	47	○	47	○	47	○	47	○	147	125
耶穌升天	55		54		48		48		48		48		48		148	126
聖神降臨	56		55		49	○ ※1	49	○ ※1	49	○ ※1	49	○ ※1	49	○ ※1	149	127
聖母卒葬三日復活昇天	57		56		50		50		50		50		50		152	152
聖母端冕居諸神聖之上	58		57		51		51		51		51		51	○	153 ※7	153

※1 部分的にまたは全体的に版木を作り直した可能性有。

※2 相違多し。

※3 左右の逆転有。

※4 6750 の 16 は、35, 36 の二枚の画から一枚の画として成立。

※5 上部に相違有。

※6 6750 の 51 は、132, 133 の二枚の絵から一枚の絵として成立。

※7 下部に相違有。

D. Cubiculum, quod visitur Laureti in agro Piceno, vbi est Maria.

丁 聖母居室今現存極西老勒多郡

E. Ingreditur Angelus ad Mariam Virginem; eam salutatur;

assentitur Maria: fit Deus homo, & ipsa Mater Dei.

戊 天神朝聖母傳上主之旨聖母久命天主費略降孕

天使が集まった時に神がイエス・キリストの受肉を宣言し、その誕生を告げるために、大天使ガブリエルをナザレのマリアのもとに派遣する。そして、聖マリアに人間と神の母になると告げるとする「ルカによる福音書」の受胎告知のシーンを詞書は語っている。<sup>5</sup>

この『天主降生出像経解』(6750)は上記表(一)で対照すると明らかなように、1593年版「絵入り福音書」の画の構成順にある程度従っている。そして、1595年版の巻頭画「最後の審判」は入っておらず、「絵入り福音書」にはない「天主降生聖像」または「天主降生時図」が6750～6756の第一頁を飾る構成となっている。

詞書を読める人が少なかった時代に、頻繁に印刷された事実や一部に俗字も認められることから、本来の目的とは相違した「絵解き」での教育、さらに宣教において、視覚的陶冶材として使われた可能性がある。<sup>6</sup>「天主降生聖像」や「天主降生時図」が最初に配置されるのも、天主教を知らない人々にキリストの紹介から始めるとすれば、十分に納得できる。そして、「最後の審判」がこの作品では除外され、上記表(一)で明らかなように、キリストが冥府を訪ねる「耶蘇聖魂降臨地獄」(「冥府降下」)が6750、6751以外では除外されるのも当時における中国の思想的状況に鑑みた結果かも知れない。

一方、「絵入り福音書」は画法として、陰影法が色濃く出ているが、『天主降生出像経解』は「絵入り福音書」を忠実に模写しているとはいえ、陰影法が駆使されていない。序文に版木は中国人が彫ったと記載があることから、制作年代の1637年頃は中国人絵師には陰影法での表現が難しかったと言える。

ところで、顧起元著『客座贅語』(1617年)は、「(前略)利瑪竇西洋歐羅巴國人也 面皙 虬鬚 深目而睛黃如貓 通中國語 來南京居正陽門西營中。自言其國以崇奉天主為道 天主者 制匠天地萬物者也 所畫天主 乃一小兒 一婦人抱之 曰天母 畫以銅板為幀 而塗五采於上 其貌如生 身與臂手儼然隱起

幀上 臉之凹凸處 正視與生人不殊 人間畫何以致詞 答曰 中國畫但畫陽不畫陰 故看之人面軀正平 無凹凸相 (後略)」とマテオ・リッチに関する話を記す。<sup>17</sup>

簡訳すると、「マテオ・リッチは銅製の枠に収まった天主の像と幼児を抱えたマリア像を所蔵している。五色の色で描かれており、生き生きとしている。陰影があり、はっきりとした顔立ちで描かれている。そのように生气に溢れた画が描かれる技術を問われ、中国人は陰影を描かないから、画が平面的であり、凹凸がないと答えた。」となる。このことから、陰影法が宣教師によって中国に持ち込まれたことは明らかである。

また、マテオ・リッチが程大約に贈ったとされる、4枚の銅板宗教画が『程氏墨苑』に中国人の手によって翻刻され、収められており、それらの木版画にも陰影法の痕跡は認められないのである。この『程氏墨苑』は贈られた程大約が編集し、丁雲鵬、廷羽等らの画を黄鱗、黄應泰、黄應道、黄一彬らが翻刻し、制作したものとされ、萬歴三十三年(1605)に出版された。『中國古代版畫叢刊二編』、上海古籍出版社、1992年、「程氏墨苑跋」、三頁には、以下のことが記されている。

「(前略)、刊有西洋宗教版畫三幅、一、「信而歩海、疑而即沉」、二、「二徒聞實、即捨空虛」、三、「淫色穢氣、自速天火」。以後所印本《程氏墨苑》収四幅、第四幅為「天主像」、且附以羅馬註音、解釋圖畫的內容。這四幅畫為日本神學院據西洋銅版畫原稿及壁畫刻成、後為意大利傳教士利瑪竇所得、經祝世祿介紹、於南京持贈程大約、程氏命刻工用木刻方法方刻、編入《墨苑》。西洋銅版畫刊之於中國木版畫、此書實為首創、是研究中西美術交流之重要資料。」

ところで、6750以下全ての異本の画に同様の傷がある事実から、同じ版木を使用し板行を繰り返していた可能性を指摘したが、6750の画に傷があり、1637年に制作されたこと、ジウリオ・アレーニの中国へ入国が1613年であることに鑑みると、1620～30年前後にはこの作品が既に板行されていた可能性もある。

そして、フェルディナント・フェルビーストが1674年に出版した『坤輿全圖』(1914)、『坤輿圖説』(1526)の挿絵に使用される動物画には陰影法が使用されていることから、17世紀中葉には陰影法の技術が中国人絵師に行き渡ったと考えられるのである。<sup>18</sup>

一方、解題目録4414～6689にある5501～5503の解説は、“Plantes de la Chine dessinées et peints par des missionnaires, gravées et imprimées en couleurs

par les missionnaires Jésuites”と記す。宣教師が中国の植物を描き、彩色し、イエズス会宣教師が彫り、多色刷りし、中国で出版したとするのである。5501 は版画部門蔵 (0e137) で、V.1 は百三十二枚、V.2 は九十五枚、V.3 は六百枚の植物画から構成され、鑑賞用植物だけでなく、薬草、野菜や果物も含め、陰影法を使用した描き方がなされている。制作年代は不明であるが、17 世紀中葉の作品には違いないであろう。

したがって、中国の植物画にも陰影法の影響が及んだ可能性もある。中国では宮廷画院の様式を踏まえた野菜や果物、また鳥や虫等を描く作品が数多くあり、北宋以来の伝統となっている。一般に「蔬果図」、「雑画」、「花卉」と呼び、日常卑近な題材を中心とする。宮内庁三の丸尚蔵館蔵伝牧谿「客来一味・即庵日飫図」(双幅)は南宋時代で大根、明代の画家黄道周も「墨菜図」で、大根、人参を描いている。

この伝統は日本にも及び、十六世紀には、ボストン美術館蔵是庵「瓜に虫図」や雪村「蕪図」があり、十七世紀には、中国画をよく写した狩野探幽や狩野安信などが筍、大根、茄子、葡萄、瓜、蕪、南瓜、蓮根、甘茶蔓、胡麻などを描いている。このことから、写生技術の取得も含め、陰影法により植物画を描く技法が中国から日本にも及んだ可能性も否定できないのである。<sup>19</sup>

## 5. 結びにかえて

フランス国立図書館写本室蔵書をより多くの日本人研究者に紹介したいと調査を始めて既に八年になる。そして、少なくとも来年には全ての目録を完成させ、この膨大な蔵書を紹介できたらと願っている。

なお、この写本室蔵『天主降生出像経解』の異本の全てをマイクロフィルムで所蔵しているが、使用許可を得る時間がなく、紹介できなかった。「絵入りの福音書」と比較できれば、より分かりやすく、非常に残念と感じている。

## 注

- 1 漢籍目録については、この拙論 212～223 頁および「パリ国立図書館東洋写本室資料古書目録を通じた異文化交流の諸相」名古屋大学『言語文化論集』第 30 巻第 2 号、88～95 頁、2009 年を参照されたい。また、科学研究費基盤 (C)「パリ国立図書館東洋写本室蔵書を巡る異文化交流の総合的比較研究」(平成 22～24 年度)で、聖書漢訳書をテーマとして研究を継続している。
- 2 朝鮮漢籍や和本、和本漢籍は手書き目録または分類カードによって調査するしかなく、筆者が全て目録化した。前掲書『言語文化論集』(註 1) 69～87 頁、2009

年。なお、モーリス・クーラン編『パリ国立図書館所蔵漢籍解題目録』本篇(1900～1912年刊)が1993年に、補遺篇2が1994年に霞ケ関出版から復刻版として出版されている。

- 3 *L' imprimerie Sino-Européenne en Chine. Bibliographie des ouvrages publiés en Chine par les Européens au XVIIème et au XVIIIème siècle*, ed. Ernest Leroux. Paris 1901
- 4 1552年、イタリアのマチェラータ生まれ。中国には1583年に入り、1610年北京で死去。
- 5 前掲書(註3) 39頁。
- 6 マテオ・リッチが口訳、徐光啓が漢語にし、1607年に前半六巻を出版。
- 7 前掲書(註3) 40頁。
- 8 前掲書(註3) 41頁、243-19。『坤輿萬國全圖』の解説は、マテオ・リッチが中国の習慣に従い、中国を地図の中心に置き、実体画法も取り入れず、他の国を小さく、中国を大きく描く努力をしたと記す。
- 9 楊廷筠(1557～1627年)は、徐光啓、李之藻とともに中国天主教の「三柱石」。徐光啓(1562～1633年)は、暦数学者で、1603年に洗礼。マテオ・リッチの口授を翻訳・筆記・公刊。日本に多大な影響を与える農書『農政全書』の著者。李之藻(1565～1630年)は杭州府在住の官吏。『天学初函』の著者。『天学初函』は理編と器編からなり、理編はキリスト教関係の書物を集めた書物。楊廷筠、徐光啓や李之藻らの著書も写本室は、数多く所蔵。
- 10 張星曜(1633～1715年)。写本室は、数多くの著書を所蔵。
- 11 題が『天主降生言行紀像』、序は『天主降生出像經解』、全二十九葉、五十一図の作品をハーバード大学ホートンライブラリーが所蔵している(No:006815826)。調査したところ、図順は6755と同順であった。また制作年代は1640年とされている。
- 12 前掲書(註3) 1～2頁。
- 13 『進呈書像』(6757)もキリストの一生を描く図像集である。字数の関係から今回は省く。
- 14 1593年版は以下を参照。*The illustrated spiritual exercises*, ed. Jerome Nadal, original published: Antwerp, 1593, University of Scranton Press, 2001. 1595年版は以下を参照。A. Homann ed., *Annotations and Meditations on the Gospels*, vol.1, Philadelphia: Saint Joseph's University Press, 2003; id., *Annotations and Meditations on the Gospels*, vol.2, Philadelphia: Saint Joseph's University Press, 2007; id., *Annotations and Meditations on the Gospels*, vol.3, Philadelphia: Saint Joseph's University Press, 2005. なお、アントワープで再版された1607年版を元にこのvol.1、2、3は制作されている。
- 15 *The illustrated spiritual exercises*, *Annotations and Meditations on the Gospels*のどちらもが「Luc, i」と記す。マタイ福音書は、場所がベツレヘムとし、ヨセフの夢に大天使が現れる。
- 16 一方、「絵入り福音書」はラテン語で記されていることから、宣教師用の著作であった可能性が高い。

- 17 『北京図書館古籍珍本叢刊』66 卷六 二一三、728 頁上段 16—下段 3。書目文獻出版社、1988 年。
- 18 註 11 のハーバード本は 1640 年の成作とされるが、調査中である。
- 19 日本における植物画への陰影法の影響は享保五年（1720）の漢訳洋書輸入解禁以降と一般にはされている。しかし、室町時代後半に宣教師が陰影法を持ち込んだ可能性や漢訳洋書輸入解禁以前の中国絵画の影響も含め、植物画に関する陰影法の日本での受容時期を改めて考察する必要があるであろう。

[図版の出典]

図一、図二、図三はそれぞれ、*Annotations and Meditations on the Gospels*, vol. 1, Philadelphia: Saint Joseph's University Press, 33、35、103 頁から転載した。

[附記]

2009 年度「教育研究プロジェクト」では、ともに写本室調査をおこなった名古屋大学大学院国際言語文化研究科水戸博之教授から、キリスト教関連図像の分析、ラテン語に関して、多くの教示を受けました。また、表作成に関して、同研究科大学院生畑有紀氏に大変お世話になりました。深謝申し上げます。